

+HOUSE プラスハウス



+HOUSE がつくる豊かな暮らし（屋根と2階を透視した鳥瞰イメージ）



余白の豊かなまちなみ

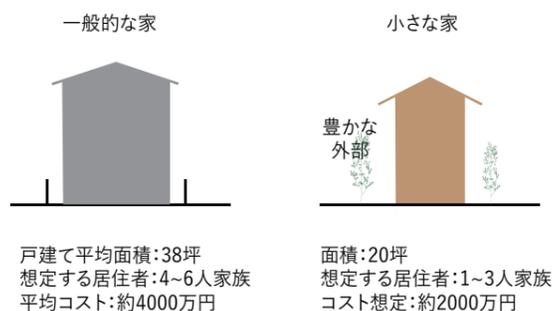


隣家と共有する南庭



外部空間と一体となった広がりある内部空間

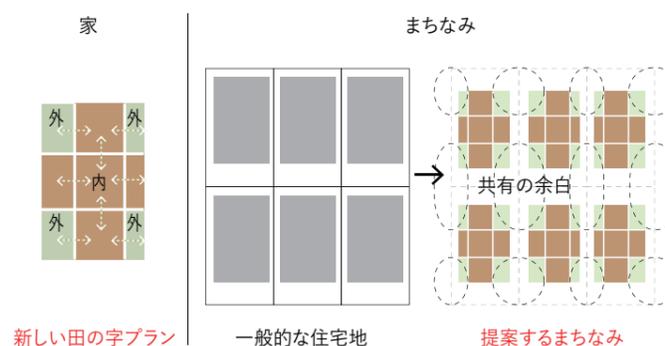
1. 小さいことでプラスされる生活の豊かさ



人口減少や建設コストの上昇等、住宅業界のかかえる課題があるなかで、日本の木の家というテーマから、新しい住宅のあり方を考えることが重要です。私たちは20坪の小さな家を切り口として、戸建て住宅のもつ余白（外部空間）の豊かさを最大限に活かした家を考えました。

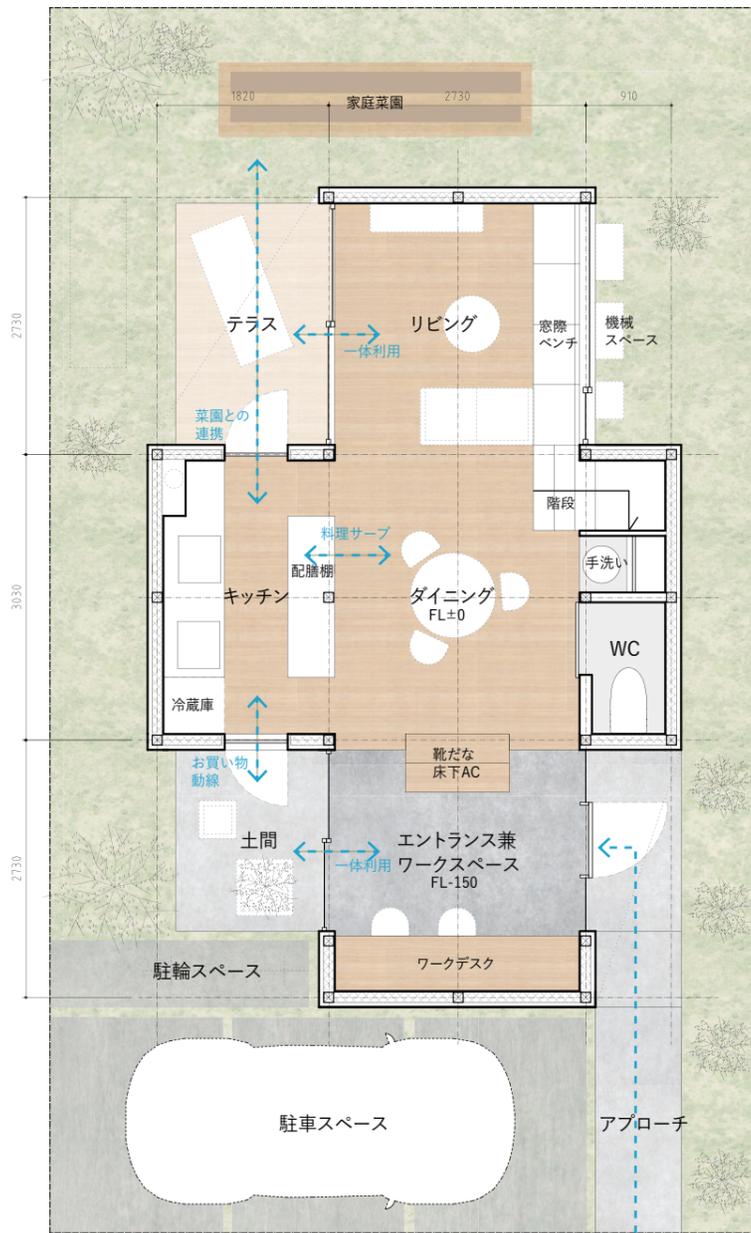
小さいことにより、省エネ性や建設コストにメリットがあることはもちろん、多様な家族のあり方やまちなみに至るまで、ネガティブな小ささではなく、小さいことでプラスされる生活の豊かさを最大限に活かした20坪の小さな家を提案しています。

2. 外部を含めた田の字プランが新しい日本の木の家をつくる

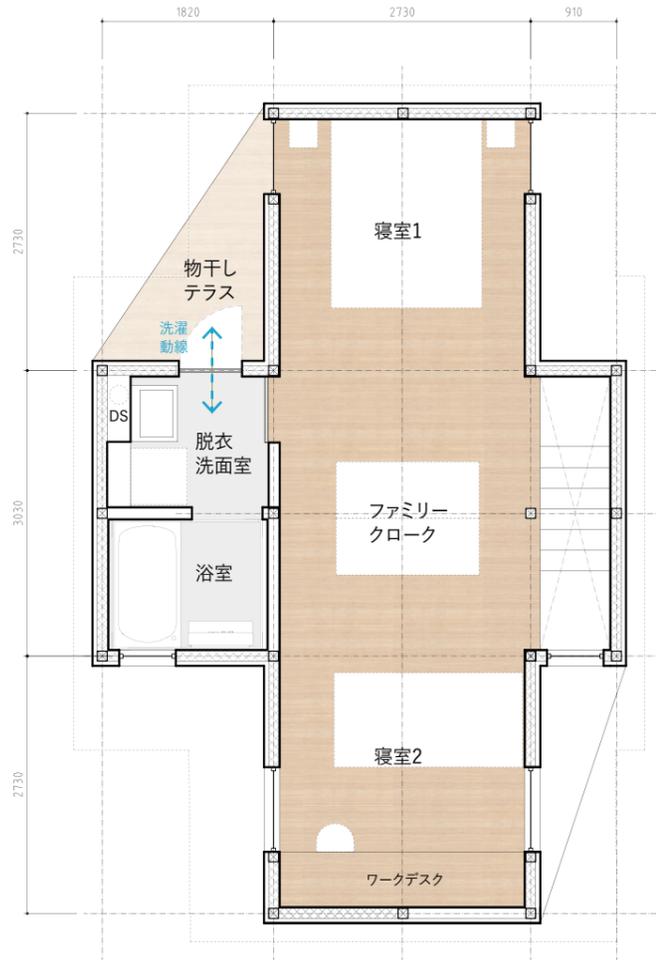


一つの空間を襖や障子で隔てて作られる日本の伝統的な田の字プランのフレキシブルな特性をヒントに、外部空間を田の字の中に含めた新しい日本の木の家を提案します。

外部を含めた田の字プランは、ゆとりある外部空間を創出するだけでなく、内部と連続し、敷地全体の空間をより豊かにしてくれます。また、このプランが連なることにより、従来ではデッドスペースとなっていた、東西の敷地の余白に意味を与え、隣地へと波及し、豊かなまちなみができると思っています。

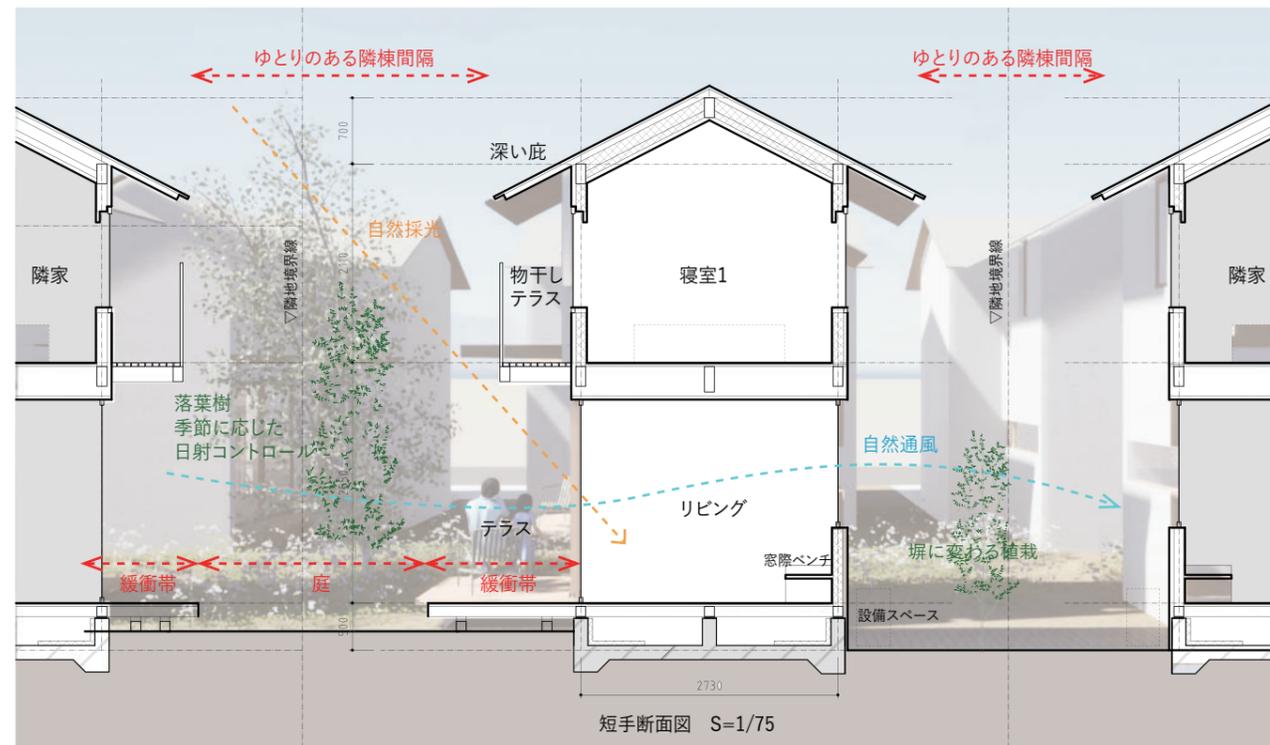


1階平面図兼配置図 S=1/75

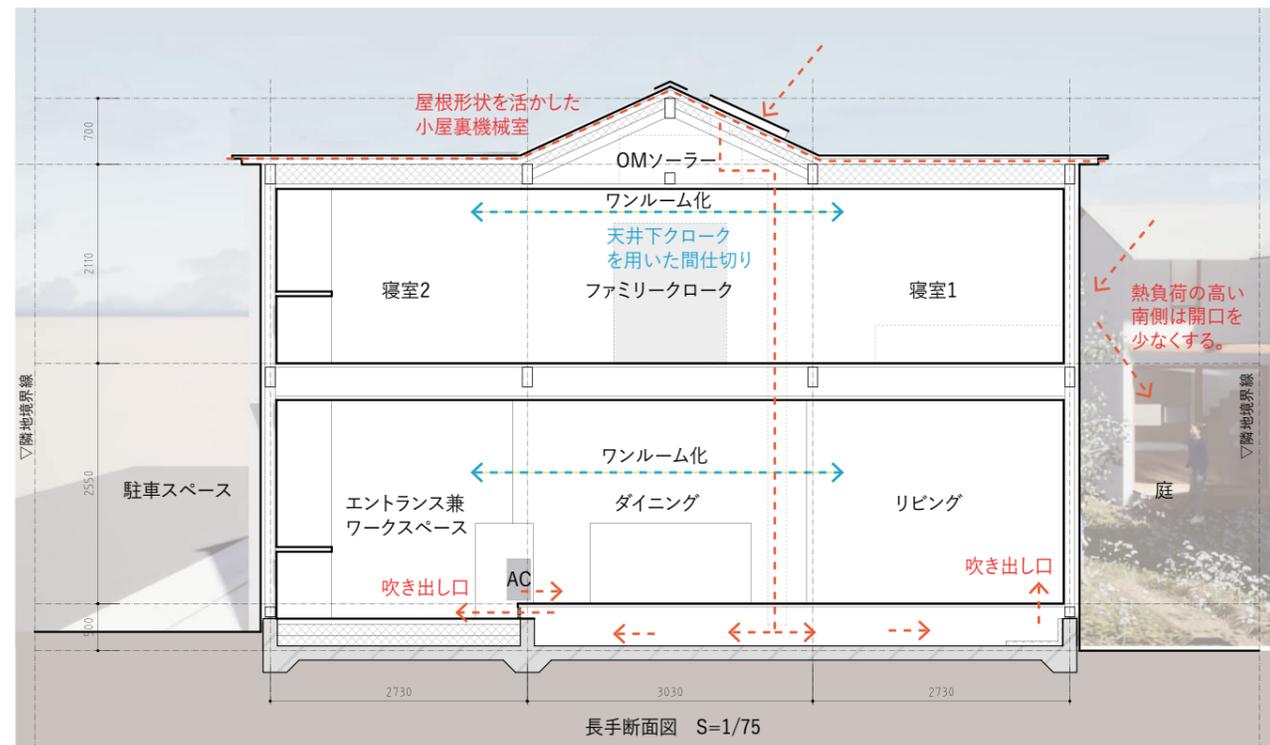


2階平面図 S=1/75

面積表	
敷地面積	:97.5m ² (29.5坪)
1階延床面積	:33.0m ²
2階延床面積	:33.0m ²
延床面積	:66m ² (20坪)
建築面積	:33.0m ²

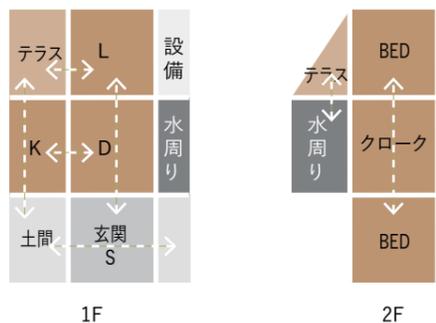


短手断面図 S=1/75



長手断面図 S=1/75

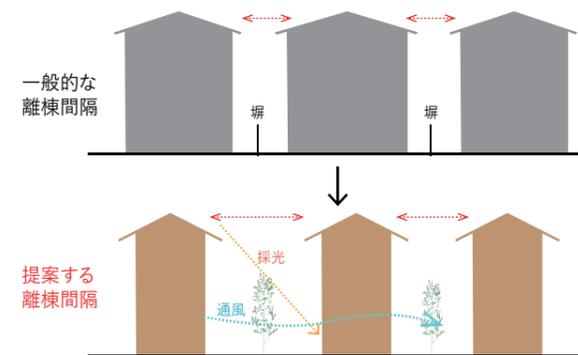
3. 内壁を最小限とした開放的かつフレキシブルなプラン



小さな家ながらも、各室を重ね使いしながら、外部へと連続していく計画とすることで、広がりのある平面計画を目指しています。

- ・ エントランスとワークスペースを重ね使いし、SOHOとしても利用可能なスペースとして設えます。
- ・ 北側土間は日曜大工や自転車のメンテナンス等、外での趣味のスペースとして活用できるとともに、キッチンへ荷物を運ぶアプローチとして日常的に使用することができます。
- ・ 2階中央に設けたファミリークロークは2室の間仕切りとしても活用します。
- ・ 敷地の余白部分に将来的に増築することも可能です。

4. 太陽の恵みを最大限活かすパッシブとアクティブの仕組み



アクティブデザインの仕組み

- ・ 屋根形状を活かして、OMソーラーを小屋裏に設置し、1階床下に集熱した空気を送り込みます。
- ・ 基礎断熱とし、集熱空気を基礎コンクリート部分で蓄熱するとともに、エントランス兼ワークスペースは土間の設えとし、より太陽の恵みを感じられる設備計画とします。

パッシブデザインの仕組み

- ・ 隣棟間隔を確保した配置とすることにより、自然採光・通風を取り込みむことができます。
- ・ 各室の前面にはテラスや外土間といった干渉スペースを設けることにより、適度な距離感を保つことができます。